

「北海道後期高齢者医療広域連合の財務諸表(平成30年度決算分)」の概要

○ 一般会計等財務書類(対象範囲：一般会計)

1 貸借対照表

借 方		貸 方	
【資産】	6億1,287万7千円	【負債】	232万4千円
固定資産	232万円	固定負債(その他)	231万2千円
流動資産	6億1,055万8千円	流動負債(その他)	1万2千円
うち基金	1億8,058万2千円	【純資産】	6億1,055万3千円
		余剰分(不足分)	4億2,765万1千円
【資産合計】	6億1,287万7千円	【負債・純資産合計】	6億1,287万7千円

北海道後期高齢者医療広域連合の一般会計の資産総額は6億1,287万7千円で、負債は232万4千円、純資産は6億1,055万3千円。(前年度の純資産は3億7,863万6千円)

資産は、そのほとんどが現金預金と基金(流動資産)。

現金預金の内訳は、一般会計の歳入歳出差引額の合計が4億2,987万9千円。

基金の内訳は、流動資産に該当する財政調整基金が1億8,058万2千円。

なお、流動資産の現金預金は、出納整理期間終了時の現金預金残高を示すものであり、市町村事務費負担金の精算分や、国への補助金返還分など、翌年度の精算財源とする分の金額も含まれているため、純資産のうち、余剰分の全てが本来の剰余金の要素を持つものではない。

2 行政コスト計算書

経常費用は21億962万7千円で、経常収益は239万7千円。これらの差し引きからなる純経常行政コストは21億723万円。(前年度のコストは14億8,398万3千円)

また、臨時損失及び臨時利益がなかったため、純行政コストも21億723万円。

内訳を性質別にみると、人にかかるコスト(人件費)が9,515万8千円、物にかかるコスト(物件費)5,314万1千円、移転支的的なコスト(移転費用)が19億5,997万9千円。

3 純資産変動計算書

平成30年度内における純資産の変動は、+2億3,191万7千円。(前年度の変動は▲3,338万7千円)

内訳は、純行政コストによる減が21億723万円、市町村負担金の財源による増が23億3,442万5千円、国・道の補助金受入による増が472万5千円。

4 資金収支計算書

平成30年度末の歳計現金預金残高は4億2,997万5千円(前年度残高は1億9,817万4千円)、うち歳計外現金残高は9万6千円。

前年度からの増減内訳は、業務活動収支の部(経常的な行政活動による資金収支)は2億3,193万8千円の黒字、投資活動収支の部(投資活動による資金収支)は13万4千円の赤字など。

○ 全体財務書類(対象範囲：一般会計及び後期高齢者医療会計)

1 貸借対照表

借 方		貸 方	
【資 産】	375 億 1,354 万 5 千円	【負 債】	235 万 5 千円
固定資産	121 億 5,804 万 6 千円	固定負債（その他）	231 万 2 千円
投資等	120 億 4,204 万 3 千円	流動負債（その他）	4 万 3 千円
うち基金	118 億 9,713 万円	【純資産】	375 億 1,119 万円
流動資産	253 億 5,549 万 9 千円	固定資産等形成分	123 億 3,862 万 8 千円
うち基金	1 億 8,058 万 2 千円	余剰分（不足分）	251 億 7,256 万 1 千円
【資産合計】	375 億 1,354 万 5 千円	【負債・純資産合計】	375 億 1,354 万 5 千円

北海道後期高齢者医療広域連合の資産総額は 375 億 1,354 万 5 千円で、負債は 235 万 5 千円、純資産は 375 億 1,119 万円。(前年度の純資産は 358 億 8,858 万 2 千円)

資産は、そのほとんどが現金預金と基金(固定資産・流動資産)。

現金預金の内訳は、各会計の歳入歳出差引額の合計が 248 億 3,669 万円。

基金の内訳は、固定資産に該当する運営安定化基金 118 億 9,713 万円、流動資産に該当する財政調整基金が 1 億 8,058 万 2 千円。

なお、流動資産の現金預金は、出納整理期間終了時の現金預金残高を示すものであり、市町村負担金の精算分や、国・道等への補助金返還分のほか社会保険診療報酬支払基金への返還金など、翌年度の精算財源とする分の金額も含まれているため、純資産のうち、余剰分の全てが本来の剰余金の要素を持つものではない。

2 行政コスト計算書

経常費用は 8,374 億 3,841 万 3 千円で、経常収益は総額 5 億 5,306 万 1 千円。これらの差し引きからなる純経常行政コストは 8,368 億 8,535 万 2 千円。(前年度のコストは 8,269 億 2,937 万 7 千円)

また、臨時損失 67 千円を計上し、純行政コストは 8,368 億 8,541 万 8 千円。

内訳を性質別にみると、人にかかるコスト(人件費)が 2 億 7,978 万 5 千円、物にかかるコスト(物件費)41 億 2,693 万 4 千円、移転支的的なコスト(移転費用)が 8,230 億 8,377 万 4 千円。

3 純資産変動計算書

平成 30 年度内における純資産の変動は、+16 億 2,260 万 8 千円。(前年度の変動は▲46 億 9,916 万 8 千円)

内訳は、純行政コストによる減が 8,368 億 8,541 万 8 千円、市町村負担金(事務費、療養給付費及び保険料)、社会保険診療報酬支払基金交付金等の財源による増が 4,689 億 5,350 万円、国・道の補助金受入による増が 3,694 億 4,444 万 2 千円。

4 資金収支計算書

平成 30 年度末の歳計現金預金残高は 250 億 6,375 万 5 千円(前年度残高は 233 億 8,390 万円)、うち歳計外現金残高は 9 万 6 千円。

前年度からの増減内訳は、業務活動収支の部(経常的な行政活動による資金収支)は 16 億 7,968 万 9 千円の黒字、投資活動収支の部(投資活動による資金収支)は 16 万 8 千円の黒字。